

里山コモンズクラブ通信

2012 秋号

みなみやま

Satoyama Commons Club News MINAMIYAMA

NPO 南山の自然を守り育てる会

http://www.ina-mina.com

●お問い合わせ先

発行・責任者

090-6658-7611(梁川) / 090-3579-4537(坂本)

里山コモンズクラブ通信「みなみやま」はNPO法人南山の自然を守り育てる会の活動案内です。

編集・責任者

木の実自然観察会 in 南山のご報告



10月6日(土)天候に若干の不安はありましたが、予定通りに集合・出発しました。今回は講師の内野さんを加えても10名と小規模になりました。



今回は、コナラ、クヌギ、シラカシのドングリを拾い、ポットに植えるのが主な目的になりました。山の中に入ると早速ドングリがたぐさん落ちていました。

「コナラが多々、その中に少しシラカシが混ざって落ちていました。内野さんによく似た「コナラ」とシラカシの見分け方を教わりながら拾い集めていきました。「コナラ、シラカシ」に比べて、クヌギはほとんど見られませんでした。

ドングリだけではなく、ほかの生き物たちも多く見ることができました。ポットに土を詰めると、水が飲んでいる「ヒゲ」や、ヤマアカガエルが飛び出してきたり、シヨウリョウバッタ、モトキヤホタルガを間近で観察もしました。



予定のポットに到着すると子供たちの袋はたくさん、木の実にいっぱいになっていました。こどもは土をポットに詰め、

ドングリの植え方を教えてもらいました。周りには10月にもかわらぬ多くの蝶々が飛び回っていました。こどももむかごやススキを収穫したり、セイタカアワダチソウを槍に見立てて遊んだりしました。女の子たちは端っこをほつて泥団子を作って遊んでいました。

今回は日程の関係からか、あまり多くの方は「ついで」でしたが、少人数ならではの密度の濃い体験になりました。また、自然の中に入ると「観察会」は予定通りに行かないことが多い反面、思いもよらぬ発見や出会いがあり、その醍醐味をぜひ多くの方に感じていただければとおもいます。(中村美里)

新百合ヶ丘「万福寺」

まちなみ見学レポート

9月29日、南山の自然を守り育てる会有志、および南山の組合担当者の有志で新百合ヶ丘「万福寺」区画整理後の町なみを見学した。開発計画の区画整理組合と交渉するなか、地元住民として運動してきた児島脩さんに案内をお願いした。

現地は新百合ヶ丘駅北側に広がる約40ヘクタール余りの区域。まず駅前・世田谷街道口の「アートセンター」裏から、丘の公園「万福寺」や「まも公園」に登る。原植生を生かした所だが、建物で植生を隠すのは景観上マイナスでは、「この声も出るほど」周囲をビルに囲まれていて、小高い雑木林の隙間からはさらに高層マンション群が見えなかった。

次に北側へ坂を上ると、ひな壇状にできあがった住宅地に、のり面のコンクリートが目立つ。ただし敷地の歩道際にはサツキなど低木を植える50cm程度のスペースが設置されるなど緑化の工夫もあった。また住宅の建っていない敷地も多く、「国有地」など未利用の土地は裸地や帰化草本などが目立っていた。

次に旧地権者宅そばをへへへ道路トンネルへ。その上方は公園となっていたが、整地された植栽のみの公園で元の植生はなかった。

次いで谷間の公園へ。元の植生の雑木林と地形を生かした公園にはこの日暑さを逃れて多くの人が散歩していた。

土のり面もあり、歩道際には10cm程度の側溝で雑木林と区切られていた(過剰構造ではないかとの指摘もあった)。公園北隣には以前「自然を守る会」で取材した、原地形を生かし並木など緑の豊富な住宅地「オナーズビル」もある。児島さんによると万福寺地区もそのような住宅地の開発を希望していたとのことだった。

次に、区画整理以前に作られた急坂を上って北東の旧住宅・千代ヶ丘地区との境界部分をみる。旧住宅地区の意向で新住宅地との境界線は、グリーンベルトとするよう要求したが、結局街路樹風に列の並木を植えさせたとの事。開発完了から7年位のためか、枝振りは目隠しにはまだ足りなかった。やむを得ない問題は私有地のため、将来転売などの際に伐採される可能性が有るとのこと。

次いで、北東マンション裏の尾根に出る。高台に上ると丹沢などが見え眺めは良い。ここには鎌倉時代の古道遺構が残っているはずなのだが、その痕跡は何も示されていない。斜面は植栽が乏しいのか緑も少なく感じられた。

次にホタルやホトケドジョウなど水生動物が保護されている「ピオトープ」の外側へ。以前から有った湧水と斜面の植生、元の土を戻して造成された谷戸には鬱蒼とした樹林が再生していた。ここは木道なども作られて市民が見学できるように計画されていたが、現在マンションの所有地として管理されている。その為(生物保護のため)でもあるだろうが、全域が鉄策で囲まれ入り禁止となっていた。開発前から親しんでいた近隣住民などには利用を希望していたのに残念、この声もあるという。

最後に斜面の原植生を半分残した「十一神社」を見学。神社自体は工事の際に丘の上にあった敷地を掘り下げて、建て直した。斜面は開発前からシラカシなどの林で、東側の斜面下部には植栽の公園が隣接。そこは原植生と連続してはいたものの、植栽がサツキなど園芸種ではあったのが、違和感として残った。全体に、緑地4割と言われる開発地域には公園などが随所に配置されている。ただし植生の大半は植栽によるサツキなどの園芸植物で、開発終了からの期間の為に育っていない緑、コンクリートの斜面や土のままの空き地が目立つ。

「住民にも道幅拡大を意図する声もあった」「案外工夫しているところもあり、悪くないのでは」などと肯定的な声も出たが、幾つかに分析された緑地の間に残暑の日差しを吸収したアスファルトが広がる光景は私たちが考える「里山コモンズ」のイメージからは遠いと感じた。

今回の見学から里山コモンズ実現に向けて気がついた課題をまとめてみた。

①緑の連続性: 総面積で多くの緑を確保しても、小さく分断されているのは景観上も生物環境上も効果が薄れてしまう。散在する緑地は生物の通り道や一連の緑の景観となるように、緑地帯などで繋がれるよう工夫が必要。

②法面や道路・裸地の植栽: アスファルトや砂利の裸地、コンクリートブロック等の護岸壁は、景観として人工的であるばかりか、夏場に太陽熱を吸収しヒートアイランドの二因となるなど、環境にも悪影響がある。

未利用土地など裸地に植栽を施すか、または自然に生えてくる草木を適度な間引きなど管理で誘導、在来種が生育する緑地を増やすべき。のり面にも土壌を施して在来植物の植栽または管理、それが不可能なら蔓生植物で被覆して護岸壁を露出させない等、緑被を増やす工夫が欠かせない。

③自然植生と植栽種: 植栽などで緑被を施す際に、見栄えや経済性などからサツキやコスモスなどの園芸植物ばかりとなりがち。

里山コモンズでは「里山再生」を目標に、開発前の植生や周辺の植物を用いることが望ましい。例えば並木道や公園の高木にはクヌギやアラカシ、エゴノキなどを配置し、低木としてはムラサキキキやヤマアジサイなど、花壇やプランターを飾る場にもナルコリやキクイモ、フスナなどを推奨したり、在来種を増やす手法を考慮するべき。

むやみに緑をつなげると見通しなど悪化し防犯上問題が生じないか、植栽などにかかる費用、私有地に緑を誘導する施策をどうするか、など課題は多いが、実現可能な取組も考えれば沢山あるのでは、とも思えた。



(桜井朋広)

活動だより 今後、会報で皆様へ3カ月前後の活動結果と活動予定を案内させていただきます。

◎活動結果

- 3/3(土) 日韓両生類シンポジウム/高幡不動 10時~16時30分 参加者1名
- 3/4(日) 総会・運営会/城山体験学習館14時~17時 参加者6名
- 3/18(日)大鷹観察会8時~12時 参加者2名
- 3/25(日)サンショウウオ観察会/八王子 参加者5名、他4名
- 3/29(木) 大鷹観察会8時~12時 参加者1名
- 4/4(水)大鷹観察会8時~12時 参加者1名
- 4/13(金)大鷹観察報告(都庁) 参加者1名
- 4/15(日)大鷹観察会 8時~12時 参加者2名
- 4/21(土) 大鷹観察会 8時~12時 参加者1名
- 4/28(土) 竹の子堀/南山 10時~13時 参加者35名
- 5/6(日) 大鷹観察会 8時~12時 参加者1名
- 5/20(日)バードウォッチング/南山 10時~12時 参加者30名
- 5/23(水)サンショウウオ観察会 10時~12時 参加者1名
- 5/28(月) 大鷹観察会 8時~12時 参加者1名
- 5/29(火)サンショウウオ観察会 10時~12時 参加者2名
- 6/1(金) 大鷹観察会 8時~12時 参加者1名
- 6/1(金)大鷹観察報告(都庁) 参加者1名
- 6/8(金)サンショウウオ観察会 10時~12時 参加者1名
- 6/24(日) 大鷹観察会 8時~12時 参加者1名
- 6/29(金)サンショウウオ観察会 10時~12時 参加者1名
- 7/5(木)サンショウウオ観察会 10時~12時 参加者1名
- 7/9(月) 大鷹観察会 8時~12時 参加者1名
- 7/14(土)サンショウウオ観察会 10時~12時 参加者1名
- 7/21(土) じゃが芋ほり 14時~15時 参加者2名
- 7/22(日) 奥畑谷戸下草刈 10時~16時 参加者18名
- 7/29(日) 大鷹観察会 8時~12時 参加者1名
- 8/18(土) 奥畑谷戸下草刈 10時~16時 参加者15名
- 8/27(月)大鷹観察報告(都庁) 参加者2名
- 9/22(土) 奥畑谷戸下草刈 10時~16時 参加者20名
- 9/23(日) 街並み見学会/八王子 午前中 参加者5名
- 10/6(土) 木の実観察会/南山 10時~12時30分 参加者10名
- 10/20(土) 奥畑谷戸下草刈 10時~16時 参加者6名

●今後の活動予定

- 11/4(日) 芋ほり 10時~11時
- 11/4(日)慰労会 18時~20時
- 11/17(土) 奥畑谷戸下草刈 10時~16時
- 11/23(金) 自然保護シンポジウム 13時~17時
- 11/25(日)「木質ペレットで多摩の緑は生かせるか?」イベント 10時~16時
- 12/22(土) 奥畑谷戸下草刈 10時~16時

使いながらつくろう奥畑谷戸公園 10月のご報告

10月21日(土)に、いよいよデッキづくりが始まりました。9月に採寸をし約10×5mの大きなデッキになりました。事前に駒女の榎本先生より、材木のリストをいただいて、坂浜にある清水材木店より木材を購入しました。1週間前に高台まで材料を運搬しました。現場は未舗装で道幅も狭いので組合よりガードマン含め4名と宇野さんも加わり、荷下ろしを行いました。ありがとうございました。

大工班と防腐剤を塗ると総班に別れ、みんな見よう見まねで作業を開始しました。電動ノコギリやチェーンソーなど危険な工具も使用するので、安全第一に作業を進めました。デッキのサイズが大きいので、みんなで板を持ち、支えながらコーススレッドをどんどん打ち込んで固定していきます。塗装班はキシラデコールという表面保護塗料にまみれながら、塗っていきました。昼食時には「キリンさん」が大活躍し、だいぶ使い方が慣れてきました。午後の作業はコツ掴んできたのと、人数も増えスピードアップ。なんとか基礎は完成しました。(坂本太郎)



幕板に表面保護剤を塗る



力を合わせて基礎を組み上げる

“稲城の自然とまちづくり”シンポジウム

“稲城の自然とまちづくり”について、
一緒になって考えませんか?

主催 NPO南山の自然を守り育てる会
後援 稲城市役所 富士ゼロックス増設倶楽部
協力 南山東部土地区画整理組合 株式会社緑生研究所 学校法人 駒澤学園

2012.11月23日(金・祝)
会場:稲城市立iプラザ/2F会議室
稲城市若葉台2-5-2
時間:13:00~17:00

**木質ペレットで
多摩の緑は生かせるか?**

NPO法人 赤目の里山を育てる会 理事長

**伊井野 雄二氏
講演会**

2012.11月25日(日) 会場:多摩市立グリーンライブセンター
時間:10:00~16:00

里山保全活動やオオタカ、サンショウウオの調査など、会員として一緒に活動しませんか?

会員の皆様のお知り合いで、この方は是非当会で活動して欲しいという方がいましたら、お誘いをお願いします!

**“新会員の
仲間募集”**

場所:稲城市城山体験学習館 学習室 毎月第1日曜日 14時から運営会
入会申込先:NPO南山の自然を守り育てる会
事務局:梁川(やながわ)携帯090-6658-7611
メールアドレス minamiyama@gmail.plala.or.jp

会報記事

普段、何かと忙しくて会活動にあまり参画できない!! でも少しは会に貢献したい!! そんな会員の方はおられませんか?

提供のお願い

達の会報を皆さんの力でもっと充実させませんか? 何でも結構ですので、記事の提供をお待ちしています^^ 広報担当 坂本